

〔村山地区実践記録〕



○次世代の地域づくり中核人材育成事業

1 事業計画

(1) 組織

No.	氏名	市町名	主な所属等	備考
1	稲村 理紗	山形市	まちづくりファシリテーター	
2	佐藤 洋介	村山市	村山市政策推進課地域プロジェクトマネージャー	
3	和田 貴充	村山市	村山市教育委員会生涯学習課生涯学習主査	
4	渡邊 哲也	大江町	大江町教育委員会教育文化課 主事	
5	阿部 浩明	村山教育事務所	社会教育課 課長	
6	伊藤和賀子	村山教育事務所	社会教育課 主任社会教育主事	
7	鈴木 玄輝	村山教育事務所	社会教育課 社会教育主事	
8	深瀬 明子	村山教育事務所	社会教育課 社会教育主事補	
9	大泉 泰俊	村山教育事務所	社会教育課 社会教育主事	
10	土田 紘愛	村山教育事務所	社会教育課 社会教育主事	副担当
11	黒沼 里美	村山教育事務所	社会教育課 社会教育主事	主担当

(2) 目的

地域活動に興味関心の高い中高生や青少年が、青年ファシリテーターの助言の下、講義や体験、企画・運営の実践を通して、地域活動への理解を深め、地域づくりの次世代のリーダーとしての資質を高める。

➡「地域づくりの次世代のリーダーとしての資質」について以下の3点と捉える。

- ①想像力・創造力 ②コミュニケーション能力 ③行動力

(3) 内容及び実施方法

内 容

村山市をモデル地域に設定し、村山市内在住または通学している高校生を中心に参画者を募る。参画者自身が現在抱えている課題や問題意識のあること、実践したいことなどについて、青年ファシリテーターとともに協議し、指導・助言をもらいながら、解決または実行に向けて活動を進めていく。

参画者自身の考えや思いを生かし、解決・実行に向けて活動していく中で、①想像力・創造力 ②コミュニケーション能力③行動力が発揮しやすい場となるように、事業を展開していく。

実施方法

①ファシリテーター会議

ファシリテーターと事業の概要と方向性について協議する。

②地域活動プログラム

「いっしょに Link する？」と称し、参画者同士の協議の場を設定する。

③成果発表

それぞれの企画で協議・実践の内容を発信する。

④振り返り

これまでの活動を振り返り、今後の地域活動について考える。

2 各種会議

(1) 実施

No.	月日	場 所	内 容
1	5/16	西村山地域振興局西棟	委嘱状授与、事業の方向性、事業名について
2	6/15	Link MURAYAMA	参画者募集、大まかなスケジュールについて
3	7/3	Link MURAYAMA	第1回「いっしょにLinkる？」のもち方
4	1/28	Link MURAYAMA	この事業の振り返り

(2) 内容

事業の方向性について

①この事業でめざす人間像と育成したい「次世代リーダーとしての資質」について

<めざす人間像>

どこに住んでいても地域を誇りに思い、その思いを行動に移すことができる人

<資質> i) 想像力・創造力 ii) コミュニケーション能力 iii) 行動力

②事業の方向性について

i) 想像力・創造力 ii) コミュニケーション能力 iii) 行動力 を発揮 **経験** → **地域への思い**

【方向性】参画した高校生が自分たちがやりたいことを企画・実践できるように、青年ファシリテーターは助言していく。

③「いっしょにLinkる？」の方針について

i) 大人の枠組みにはめない → “村山市”にこだわらない活動

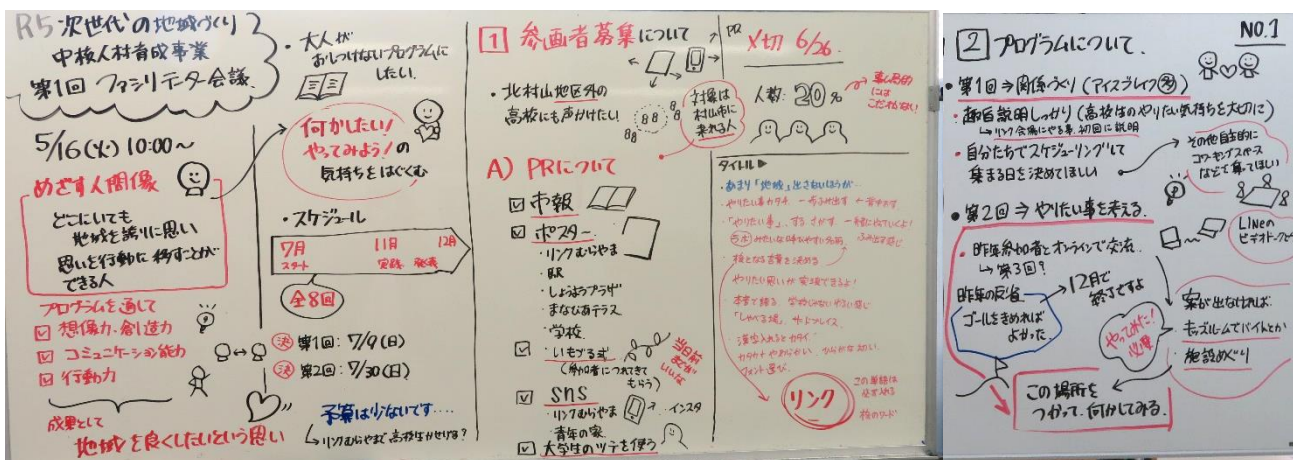
大人が地域を押し付けず、参画者がやりたいことに挑戦し、その思いを実現するために取り組んだ過程の先に、地域の良さを感じてもらえればよい。

ii) “学校ではない活動の場”での活動 → 「お膳立て」は極力しない

自由な考えを發揮しやすい場をつくる。失敗を恐れず挑戦し、苦勞するところは苦勞して、何かを創り出すことの大変さを含んだ楽しさを味わってほしい。

iii) 大きな枠を設定して考える → 「Link MURAYAMA」を活動拠点として考える

大枠だけこちらで提案し、参画者がやりたいことを考える際に、イメージしやすくする。



④青年ファシリテーターの役割について

稲村氏：参画者の話合いのファシリテート 等
佐藤氏：施設に関する紹介・渉外関係 等

和田氏・渡邊氏：参画者へのアドバイス 等
事務局：日程調整、参画者の把握 等

3 地域活動プログラム「いっしょにLinkる？」

＜内 容＞ 場所：Link MURAYAMA (全回)

※以下、ファシリテーターをFTと表記

第1～4回【7/9(日)7/30(日)8/20(日)9/10(日)】

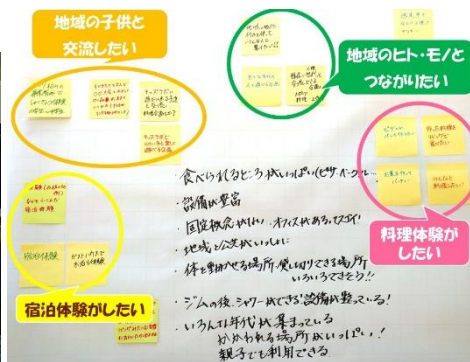
- ・ 参画者同士、FTとのフラットな関係づくり → アイスブレイク
- ・ 施設めぐり ～ 企画のアイデア出し → イメージを膨らませる
- ・ 企画の具体化 → 企画書の作成、タスク整理、スケジュール調整 等

① 自己紹介及びアイスブレイク



自己紹介は、「取説シート」を用いて1人ずつ、アイスブレイクは、毎回、FTが分担して行いました。回を追うごとに、学校・学年の壁がなくなっていました。

② 施設めぐり～アイデア出し

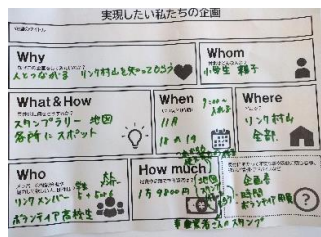


③ 「企画」と「計画」のちがいについて学ぶ



「計画」：目的を遂行するための手順を考える

「企画」：「なぜそれをやりたいのか」根本にある思いから考える



このちがいを学び、自分たちがやりたいことについて、改めて考えてみました。

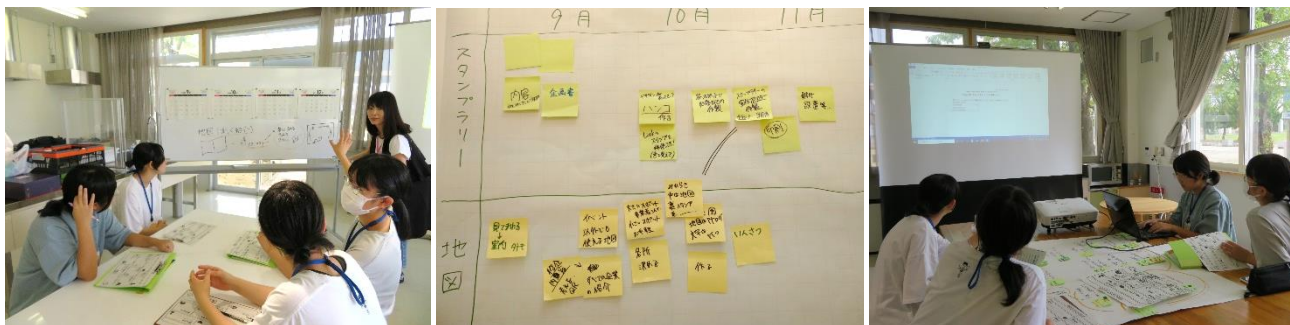
④ アイデア出し → 協議 → 再構築



アイデアを組み合わせたり、新たな視点でアイデアを出したり、自分たちのやりたいことのイメージがどんどん膨らんできました。



⑤ 企画の具体化 → タスク整理・スケジュール調整・企画書作成



話し合いでまとめた企画を、Link MURAYAMA で開催する予定の「やままる祭」というイベントの中で実施してもらうために、企画書を作成することになりました。そのために、企画の概要をまとめていきました。自分たちのアイデアを実施可能な企画にするために、スタンプラリーの中に、子供が楽しめるスポットを設けること、そして、施設の紹介を含んだ地図を作成することになりました。

その後、「やままる祭」実行委員会へ企画を説明するための企画書をみんなで作成しました。

第5～10回【9/30(日)10/22(日)10/29(日)11/18(土)11/19(日)】

- ・地域団体・企業へのプレゼン → 連携するために、企画について説明
- ・企画実施に向けた準備活動 → 適材適所で力を発揮
- ・企画の実施 → 来場者への対応、人手不足への対応 …等

⑥ 地域団体・企業へのプレゼン



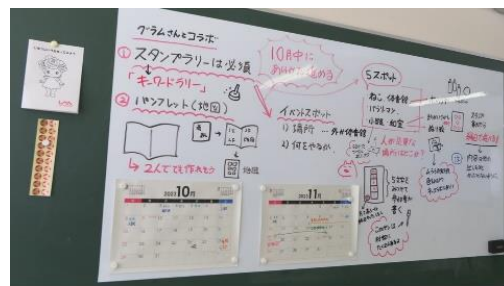
※FT 稲村氏の記録

「やままる祭」実行委員長にお会いし、自分たちの企画のプレゼンの機会を設定してもらいました。「やままる祭」の概要を聞き、その後、自分たちの企画について説明しました。お互いの思いを理解し、「やままる祭」から実践の場を提供いただくことになりました。

時を同じくして、予算と場所に課題が上がり、地元高校生との連携を考えていた「yamagata glam」に協力を要請することにしました。「yamagata glam」にも企画をプレゼンし、理解を得て、連携して企画を実施することになりました。

⑦ 最終的な企画の決定

「やままる祭」実行委員会や「yamagata glam」との協議を受け、最終的に、企画は、各スポットでキーワードを集めていくキーワードラリーとしました。各スポットで、子供たちが楽しめる要素を盛り込み、さらに、キーワードを集めた特典として、スーパーボールすくいを行うことに決定しました。また、「yamagata glam」より、焚火体験と焼マシュマロを特典として提供いただけることとなりました。



- 【各スポットの内容】
- ① ペットボトルボウリング
 - ② ぬり絵
 - ③ まちがひ探し
 - ④ ゲストハウス
 - ⑤ 動くスポット(パラリーマン)

⑧ 企画実施に向けた準備活動



キーワードラリーのパンフレットのデザインを試行錯誤しながら作成中。



キーワードラリーの順路を協議。実際に施設内を歩きながら考えました。



必要な物品について検討中。予算の範囲内で購入できるものは…？



来場者がスムーズに取り組めるように地図に表示の工夫を加えています。



廊下の表示をどこに掲示するのかを決め、表示を作成していきました。



考案したオリジナルキャラクター（非公式）をモチーフにデザインを作成。



参画者デザイン まちがい探し。(※キーワードも隠れています。)

グランピングと焚火をデザインに含め企業とのコラボをアピール！！



表紙にはキーワードラリーのルール説明、内側はスポットの位置を示し、裏表紙には、連携した企業やLink MURAYAMA の情報を掲載しました。

⑨ 「やままる祭」(会場：Link MURAYAMA) での企画実施



①ポウキング「わ」



②まちがい探し「ん」



③ぬい絵「ウ」



④ゲストハウス「ル」



⑤動くスポット「！」(1日目)



⑤動くスポット「！」(2日目)

各スポットでは、子供たちをはじめ、保護者の方も一緒に楽しめる内容となっています。また、Link MURAYAMA の入居店舗をめぐるができる仕組みとなっています。2日間で約300名の来場者が企画を楽しみました。



キーワードラリークリアの特典のスーパーボールすくい。子供たちとの交流を望んでいた参加者たちの表情も生き生きとしていました。

焚火&焼マッシュマロ体験で子供のサポート。焼き加減が難しい！！



追加企画を考案

1日目終了後、2日連続で来場した場合もキーワードラリーを楽しめるように、グループLINEの中で意見を出し合い、新たな企画を追加して実施しました。最後まで、来場者が楽しめるように工夫を凝らす姿がありました。



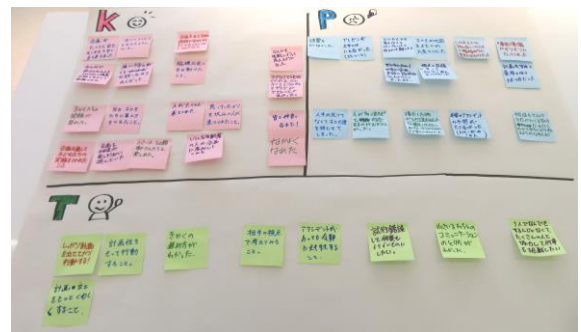
当日は、参加者5名だけでは人手不足。自分たちの友人などに声をかけ、運営スタッフを確保して実施。

4 事業振返りとまとめ

(1) 参加者の振り返り

FT 稲村氏より、KPT法という手法で、振り返りを行いました。

- Keep : 良かった、うまくいった
- Problem : 大変だった、うまくいかなかった
- Try : 次に活かしたい



その後、リーダーとしての資質について、高まりを感じた時について、各自でまとめました。

① KPT法で出された振り返り【Keep : ○、Problem : ▲、Try : ◇】

- “できなさそう” だからやめるではなく、“どうにかしてやろう！” ができたことが良かった。
- 企画を立てるまでの過程や実行するまでにたくさんの人とつながれた。
- いろいろなアイデアを出し、そこから上手にまとめられた。
- それぞれの得意分野を生かし、役割分担しながら企画の実施まで取り組むことができた。
- 子供たちをはじめ、色々な年齢層の方が、自分たちの企画を楽しんでくれた。
- 参加者同士、仲良く取り組むことができた。
- ▲ LINE上での話合いで積極的に意見ができなかった。
- ▲ どんな人が見ても分かるパンフレットを作るのが難しかった。(相手の目線に立って考える)
- ▲ 計画がぎりぎりになってしまい、最後の方に詰め込んだ活動になってしまった。
- ◇ しっかり計画を立ててから行動すること。 → **計画の重要性**
- ◇ 試行錯誤してより良いものにすること。 → **探究心の向上**
- ◇ ひとりで何でもするのではなく、たくさんの人と協力して何事にも挑戦したい。

→ **様々な人とつながることで生まれる相乗効果の気づき**

② リーダーとしての資質への実感

【考える力（想像力・創造力）】

- ・Linkするメンバーと一緒に集まり、キーワードラリーのルールやプレゼント、装飾など、どのようにしたら子供たちが喜んでくれるかを、子供たちの視点に立って考えたことで想像力が高まったと感じた。
- ・今までは、現実的にできるかできないかでアイデアを出していたけれど、Linkするメンバーと自由にやりたいことを考えて実行したことで自信がついた。自分のアイデアが受け入れられて嬉しかった。

【つながる力（コミュニケーション力）】

- ・企画を立てるまでの過程や実行するまでに多くの人と話すことができた。
- ・ひとつの企画を通して、本当に多くの人とつながることができて、初対面の人と話すことへの抵抗がなくなった。
- ・年齢に関係なく、意見を言い合ったり、助け合ったりすることができた。

【動く力（行動力）】

- ・当日の準備に向けて、自分からやることを見つけ、役割をしっかりとこなすように頑張った。
- ・企画を立てて実行するまでにはたくさんの人の協力が必要だということが分かり、その協力を得るために、色々な方にプレゼンができたことで行動力が高まった。



③ アンケートの結果（参画者5名）

Q1：「いっしょにLinkる？」に参加してみてどうでしたか？

大変良かった	良かった	あまり良くなかった	よくなかった
5	0	0	0

Q2：「いっしょにLinkる？」の活動を通して、地域や地域活動への思いに変化はありましたか？

あった	なかった
5	0

Q3：具体的にどんな変化があったか？

- ・その場所に住んでいる色々な人とかかわりあえることが楽しいと感じ、私たちにできることがもっとあるのではないかと考えるようになった。
- ・普段、家にいるだけでは、自分の住む地域にどんな施設や職場があるのか分からないけれど、今回参加して、その多くを知ることができ、自分の住む地域をもっと好きになれた。

Q4：今後、参画者（自分たちで企画運営する）として、活動に参加したいと思うか？

ぜひ参加したい	参加したい	あまり参加したくない	参加したくない
2	3	0	0

Q5：Q4で答えた理由は？

- ・普段かかわる機会が少ない他校の高校生や大人たちと一緒にひとつのことを創り上げることができて良い経験になった。企画運営は準備が大変だが、達成感を感じられたのでまた参加したいと思った。
- ・企画して実行すること、人とつながることの楽しさを実感することができた。知らない人と一緒に何かをやるのは少し勇気がいるが、やってみると思っていたものよりも何倍も楽しかった。これからも、Linkるようないろいろな企画に参加したい。

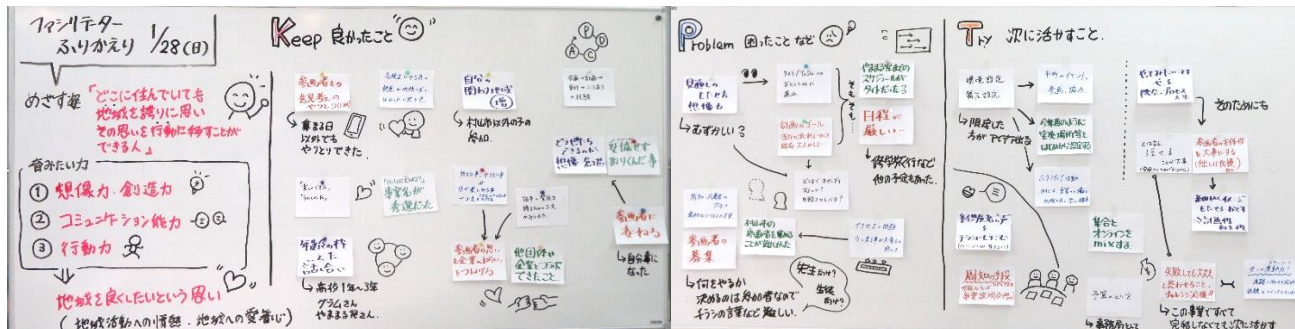
- **Link**るを通して、メンバーはもちろん、色々な人と仲良くなれた気がする。「初めまして」から半年、それぞれの得意分野を生かして企画をつくれたことがとても嬉しかった。日程が合わず、詰め込んだ準備となり見通しの甘さもあったが、改善できることだと思う。また参加できたら嬉しい。
- **Link**るを通して多くの素敵な人と出会い、つながって、自分自身の成長を実感することができた。また、地域の良さを改めて発見することができて、郷土愛がより芽生えた。機会があったらまた地域に貢献できる活動がしたい。
- みんなと仲良くなれたので楽しかった。企画の立て方をよく知ることができた。また、予定をしっかり立てないと大変なことになるのだと実感した。大変なことたくさんあったけれど、いい経験になった。



(2) ファシリテーターの振り返り

① KPT法で出された振り返り【Keep : ○、Problm : ▲、Try : ◇】

- 他団体とコラボしたことにより、企業のねらいを踏まえつつ、自分たちのやりたいことを実現できた。
- どうやったらできるのかを妥協せずに考え抜いたこと。
- 参加者の思いをもとに、やりたいこと、やるべきことを参加者に委ねることができた。
- ▲タスク/To Doを参加者とともに共有することが遅れたため、準備が最後、詰め込みになってしまった。
- ▲実施日までの準備にかかわる見通しのもたせ方には課題が残る。
- ◇環境や舞台をある程度設定することで、アイデアが出しやすくなる。
- ◇参加者のやってみたい(主体性)を大事にし、任せることが大事。(大人がやってあげるはNG)
 - 失敗しても大丈夫と思わせること。チャレンジ精神を優先する。
- ◇参加者の周知の工夫：経験者の声をチラシに掲載・事業説明会の開催(教職員向け)



② ファシリテーターより

・稲村 理紗 氏（まちづくりファシリテーター）

最後の準備活動の時に、デジタル媒体を活用し、それぞれの役割分担で準備を進め、焦りがあつた状況でも、とても楽しそうに笑顔で活動している姿に、みなさんの底力を感じた。できる範囲でやってほしいという私の思いを上回り、はじめに計画したことを諦めないで、なるべくその通りにやりたいと活動していた。企画の1日目が終わった後にはすぐに2日目に向けて改善点を盛り込み、ブラッシュアップしていくのが本当に素晴らしかった。私の方がみなさんに、学ばせてもらった。5人のそれぞれの個性を生かしていたし、今後また5人の縁が続いてほしい。

・佐藤 洋介 氏（村山市政策推進課地域プロジェクトマネージャー）

何かやってみたいことに対して、そこで止まらずに、一つ壁を越えてやってみるということは自分を幸せにするのかもしれない。**Link**るで、アイデアを広げ→それをまとめ→頼るところは頼って→自分達がやるべきことは整理して進めて実現する→その後、反省して次に生かす。それをやるかやらないかで、人生が変わってくるかもしれない。半年前にこの事業に参加した時点で、少し自分の幸せに近づいているのかもしれないし、今回やりきったことで、さらに近づいたかもしれない。ぜひ、こういうチャレンジや自己実現を積み重ねて行って、幸せな人生を歩んで行ってほしい。

・和田 貴充 氏（村山市教育委員会生涯学習課生涯学習主査）

Linkるでは、みなさんが主体的に活動し、活発に意見を出して自分達が考えた企画を実施できたということは、とても良かった。本番も、友達や家族を連れてきて、みんなで仲良く、上手く運営していて、初めてなのにすごいと思った。今後、大学進学や就職するときにも、今回やったことを基にして、「どうしたらイベントを開催できるのだろうか」「こうしたらいいんじゃないか」という考え方を持っていてほしい。

・渡邊 哲也 氏（大江町教育委員会教育文化課主事）

様々な方と関わりながら、「やってみたいことをカタチに」をテーマに、みなさんの力で賑わいを創ることができていた。特に、やままる祭に向けキーワードラリーは、最初の企画の段階から協力して準備を進めたことで成功し、みなさん自身も他校の生徒と学校の外でつながり充実した活動ができた実感していると思う。私も一緒に活動していて楽しいと感じた。当日は、たくさんの来場者が企画を楽しみ、良い思い出になったはず。今回の経験で得たものを自分の将来への原動力にして、次に向かって進んでほしい。そして、失敗もするかもしれないけれど、何事にもチャレンジを続けてほしい。

（3）事業の成果（○）と課題（▲）

○参画者が、自分たちのアイデアを企画化し、その実現に向けて話し合いを重ね、様々な人とながり、企画を実現できたことで、自分達の成長を実感することができた事業となった。

○ファシリテーターの皆さんが、参画者の「やってみたい」ことを引き出したり、その実現に向けて、地域団体や企業につなげたり、的確に助言をしたり、参画者の主体性を大事にしたりしながら、役割を全うしていただいたおかげで、参画者が充実感及び達成感を得た事業となった。ファシリテーターの重要性は大きいと実感するとともに、これからの地域づくりに必要な人材であることを再認識した。

▲参画者の募集にかかわり周知及び参画者の日程調整は、今後も大きな課題である。

○未来の参画者養成事業

1 開催要項とチラシ

(1) 開催要項

Murayama Young
My ボランティア
スキルアップセミナー

- ① ねらい ボランティア活動に興味関心を持つ中学生を対象に、実践活動を交えた研修を実施し、ボランティアに対する理解を深め、ボランティア活動への積極的な参加及び地域青少年ボランティアサークルへの加入促進を図る。
- ② 期 日 令和5年8月1日(火)～8月2日(水)
- ③ 主催・主管 主催 山形県教育委員会 主管 村山教育事務所
- ④ 後 援 山形県社会福祉協議会
- ⑤ 会 場 山形県青年の家(〒994-0032 天童市小路1-7-8 TEL 023-654-4545)
- ⑥ 訪問施設 羽陽学園短期大学附属たかだま幼稚園・学校法人東谷学園天童東幼稚園
社会福祉法人小百合保育園・小百合第二保育園・天童市立舞鶴保育園
天童市立さくら保育園・認定こども園天童みくに幼稚園
長岡よつば児童クラブ・干布ひまわり児童クラブ・天童南部第三学童
天童中央第四学童
- ⑦ 参加者 村山管内中学生 60名程度
・各学校の生徒会役員、ボランティア委員など今後の活動へつなげる意欲をもった生徒
・ボランティアに興味があり、これから関わっていこうと考えている生徒
- ⑧ 参加費 1,000円(食事代390円×2、保険代28円、材料代 他)
- ⑨ 内 容 ボランティア講話、実技講座(レク、手遊び、体操、工作など)、グループワーク、天童市内保育施設等でのボランティア体験実習 等

(2) チラシ

令和5年度未来の参画者養成事業

2023年 My ボランティアスキルアップセミナー

テーマ 未来への一歩
～つなぐ ひらく 見つける～

期 日 8月1日(火)・2日(水)

対 象 村山地区の中学生

会 場 山形県青年の家
〒994-0032 天童市小路1-7-8
☎ 023-654-4545

参加費 1,000円(昼食代、保険料等)

締 切 7月6日(木)

My ボランティアとは?
“MY”【私の】【私だけの】【私が行う】【私ができる】ボランティアにどんな挑戦し、人となつがる喜び、新たな道を拓く楽しさを味わい、新たな自分を見つける活動です。
このセミナーで、村山地区の若者(Murayama Young)のボランティアの輪を広げ、未来への新たな一歩を踏み出してみませんか?

【主催】山形県教育委員会 【問合せ】村山教育事務所社会教育課 (担当:黒沼 里美)
〒991-0003 寒河江市大学西根学石川西355番地
【主管】村山教育事務所 ☎0237-86-8274 ☎0237-86-8265
【後援】山形県社会福祉協議会 mail: kuronumasa@pref.yamagata.jp

主な活動内容 ※日帰り2日間の活動となります。
※日程及び内容は変更になる場合があります。

1 日 目	2 日 目
<p>【8:30～受付】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 開講式 ○ アイスブレイク 新たな仲間との出会い。心をひらき、仲間とつながろう!! ○ ボランティア講座 ボランティアとは何か?どんなことをするのか?みんなで学ぼう!! ○ ボランティア実技講座 実践に活かせるように、様々なスキルを身に付けよう!! ○ 先輩からの体験談 自分の地域にあるボランティアサークルの活動を知ろう!! ○ グループワーク 自分たちができるボランティアについて仲間と考えよう!! 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の会 ○ ボランティア体験実習 自分たちで考えたMyボランティアを各施設で実践しよう!! ○ 振り返り この2日間で学んだことをみんなで共有しよう!! ○ 閉講式 【解散14:20予定】

申込方法

希望者は、担当の先生に下記期日まで申し込みます。
7月4日(水)

担当の先生は希望者を取りまとめ、下記期日までFAXまたはメールで申し込んでください。
7月6日(木)

決定通知
参加承諾書に必要事項を記入し、担当の先生に提出してください。担当の先生は、郵送または直接お届けください。

当日参加

その他

- (1) 全日程参加できる方が申し込んでください。基本的に部分参加はできません。
- (2) 各校の申込み人数を10名程度とします。なお、申込み人数が大幅に超えた場合は、各校の申込人数及び学年を考慮して選出させていただきます。参加者が確定しましたら、学校を通じてお知らせいたします。
- (3) 参加決定者には、詳細(日程・名簿等)及び参加承諾書をお届けします。
①参加承諾書は、必要事項を記入し、保護者の押印の上、担当の先生に提出してください。
②担当の先生は、学校長の承諾を確認の上、ご提出ください。
- (4) 参加決定後のキャンセルについては、実費を負担していただくことがあります。
- (5) たくさんの人とかかわる貴重な機会ですので、できるだけ同じ中学校の人が一緒ににならないような班編成を行う予定です。
- (6) セミナーで撮影する写真や映像は、後日、ホームページや記録集、ちらしなど各種資料に掲載させていただく場合があります。ご了承ください。
- (7) 不明な点については、下記担当者までお問い合わせください。

【お問い合わせ・申込先】 村山教育事務所社会教育課 (担当:黒沼 里美)
〒991-0003 寒河江市大学西根学石川西355番地
TEL ☎ 0237-86-8274 FAX ☎ 0237-86-8263

2 事業日程

(1) 日程一覧

第1日目：8月1日（火）	第2日目：8月2日（水）
8:30 受付 ※受付後、大研修室へ移動。	8:30 受付 ※受付後、体育館へ移動。
9:00 ★開講式（大研修室） ★講座「ボランティアとは？」 ・ボランティアってそもそも何？ ・ボランティアは必要なの？ ・ボランティアすると何かいいことあるの？	8:50 実習の準備・確認（体育館） — 持ち物、役割など —
9:40 ★アイスブレイキング（体育館） ・集まった人はみんな仲間。 楽しくワイワイ交流しよう！	9:00 体験実習施設に向けて出発（徒歩、バス）
10:30 ★グループワーク①（体育館） 「班の活動テーマを決めよう！！」	9:30 ★ボランティア体験実習（各施設） ・前日の学びを生かして、乳幼児や児童と積極的に交流をしよう。 — 班毎に施設を訪問して交流 —
11:00 ★実技講座①（脱み聞かせ）（各研修室）	11:30 青年の家に向けて出発
12:00 昼食（食堂）— 班毎 —	12:00 昼食（食堂）— 班毎 —
12:50 ★サークル紹介（大研修室）	12:50 ★サークル紹介（大研修室）
13:10 ★実技講座②（各研修室） ・乳幼児や児童との交流の技を学ぼう。 ・自分たちにできることを見つけよう。	13:10 ★班ごと振り返り（大研修室） ・2日間を振り返ってみよう。
14:00 ★グループワーク②（各研修室） 「企画を考えよう！！」 ・実習にむけて、何をしていくのか考えよう。	13:40 ★感想記入（大研修室）
16:15 ★班ごとの振り返り・明日の確認 ・今日の活動を、仲間とのかかわりを振り返ろう。 ・明日の実習に向けての準備を確認しよう。	13:50 ★閉講式（大研修室）
16:20 解散	14:10 記念撮影
	14:20 解散



(2) 活動の様子

①開講式



②ボランティア講話



「ボランティアとは？」をテーマに、ボランティアの意義やセミナーでの心構えなどを学びました。ボランティア3原則や今新たに求められている力など、ボランティアに対する考え方を広げる時間となりました。

③アイスブレイク 【講師：大瀧 亮 氏（メディカルスポーツ塾 Hanako 代表）】



はじめは、リズム運動で心と体をほぐし、次に、班毎に自己紹介をしました。その後、班毎にテニスボールを用いたアクティビティを行うことで、班の仲間との心の距離がぐっと縮まりました。

④ グループワーク～班テーマを決めよう！～



アイスブレイクで班の仲間と打ち解け合った後、班のテーマを話し合いました。個人の目標を共有しながら、2日間の活動テーマを決め、大判用紙にまとめました。

⑤実技講座「読み聞かせ」 【講師：読み聞かせサークル『くれよん』の皆さん（天童市）】



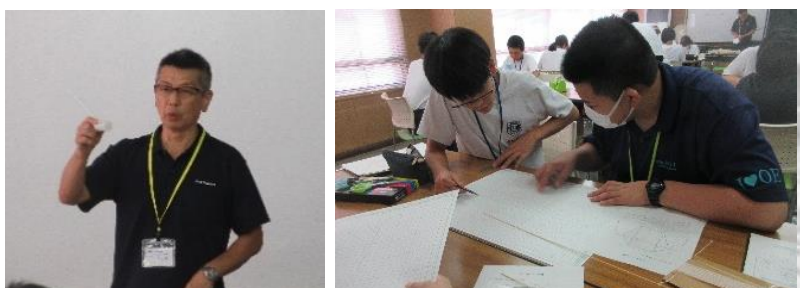
幼児向けと児童向けに分かれ、読み聞かせの演じ方や子供の心をつかむ手遊びやゲームなどを学びました。子供を前にしていると想定して、実演に挑戦しました。講座後、児童の関心を引く絵本の選定のポイントなどを質問する姿が見られました。

⑥実技講座「手遊び・体操」 【講師：ひばり保育園保育士のみなさん（村山市）】



現役の保育士さんから、子供の安全を守るために心がけていることやスキルを学びました。さらに、普段保育園で取り組んでいる手遊びや体操などを教わりました。幼児と接することを思い浮かべ、笑顔で練習しました。

⑦実技講座「手作りおもちゃ」 【講師：南部ひまわりこども園長（寒河江市）】



身近な素材を用いて、「凧」作りに挑戦しました。作り方の説明をしっかりと聞いて、材料を切ったり組み合わせたりして、オリジナル凧を完成させました。工夫次第で、様々なおもちゃが作れることを学びました。

⑧グループワーク～企画を考えよう！～



ボランティアサークル会員の高校生や大学生、市町担当者による班付アドバイザーと共に、幼児や児童の笑顔を思い浮かべ、自分たちの企画を考えていきました。

⑨ボランティア体験実習



天童市内の幼児保育施設や放課後児童クラブへ訪問し、ボランティア実習体験をしました。1日目に考えた企画の実践や子供たちとの交流など、各施設のニーズに応じて活動しました。出発の時には、緊張した様子でしたが、帰ってきた参加者の表情は充実感に満ちていました。

⑩グループ毎の振り返り



この2日間の活動について、班付アドバイザーと共に振り返りました。「2日間でこれまでのボランティアの考え方は変わったか?」「セミナーの活動で何を感じたのか?」などの思いを共有しました。

⑪閉講式

代表に、主催者が修了証を授与。



各参加者には、班付アドバイザーが修了証を授与。

代表の感想発表



修了証の授与、主催者あいさつ、感想発表を行いました。修了証は、班付アドバイザーより参加者に授与されました。代表から、「特別な機会や物資がなくても、自分のスキルで人を笑顔にすることができる事が分かった」とあり、このセミナーでの経験を今後活かそうとする姿が見られました。

⑫MYボランティアサークル活動紹介



自分たちの地域で活躍するボランティアサークルの存在を初めて知る参加者が多くいました。

3 参加者・班付アドバイザーの感想

(1) 参加者の感想

- ・ボランティアはあまりしたことがなくて、自分のために行うものだと思っていたが、誰か、何かのためにするものだと知った。今までは、ごみ拾いや掃除がボランティアだと認識していたが、小さい子の世話をしたり、バザーをしたりなどの活動もボランティアと呼べることが分かった。班の人たちも明るく接してくれて、楽しみながら、自分の目標に向かって活動することができた。本当に楽しかった。参加してよかった。
- ・ボランティア活動というと地域の美化活動が一番に思いつくが、今回のように幼児と関わるような、実際に人と接する活動もあるのだと知り、ボランティアへの意識が変化した。「誰のために、何のために行う活動なのかをじっくり考え、そのために、何が必要なのか、どうすればいいのか、まずは一人で、次は班のみんなで考え、計画を立てて実行する。」自分たちで活動を行うということは、とても難しいことが分かった。自発性を軸として、これからも様々な活動に自分から参加していきたい。
- ・学校では、先生のもと大人数で意見を出し合うため、周りに任せてしまうことがあった。このセミナーでは、少人数で企画を考えるので、自分から積極的に意見を出すことができた。また、自分たちで考えた企画で子供たちに喜んでもらえてとても嬉しかった。この活動を通して、二日間の目標である「自発性を高める」という目標を達成できた。
- ・ボランティアはただ活動をするだけでなく、人と人が関わっていくことで成り立っていく活動だと実感した。このセミナーを通して、私は「人が人をつないでいく」ということが未来への一歩につながっていくことだと知った。今後、この活動を忘れずに、未来へつなげられたらいいなと思う。
- ・今まで見返りを求めず、無償性の考え方で活動しているボランティア団体の方々は何のためにボランティアをしているのか疑問に思っていたが、このセミナーを通して、相手が喜んでくれたり、笑顔になってくれたりすることが自分にとっても価値のあるものになるんだということを知った。これからも自分のできることから進んで誰かの笑顔につながる活動をしていきたい。



- ・今までは、ボランティアをしてもお金や物をもらえるわけでもないから楽しくないし、何の意味があるのだろうと思っていたが、ボランティアをすることで、お金や物よりも大切な、笑顔や優しさ、仲間との絆が生まれるんだと思った。今回のセミナーでも、初めて会った友達や大人の方と仲良くできるか心配だったけれど、話し合ったり、企画したりする中で、相手のことがたくさん分かり、絆が生まれたと思う。これからも学校や地域でボランティアがあると思うので、たくさん参加したい。学校でも自分の企画などもやってみたい。
- ・ただ同じクラスで仲良くなるのと、ボランティアを通して仲良くなるのとでは一味違ったので、ボランティア仲間の良さを実感した。たくさんの講師の方に来ていただいたり、幼稚園の先生からアドバイスをもらったりするのは、このセミナー以外ではできない経験なので、これを無駄にせず、自分の将来に存分に活かしていきたい。
- ・このセミナーを通して、ボランティアに対するイメージが変わった。今まで、「ボランティア＝手伝い」のようなイメージだった。でも、今回は企画の内容を全部自分たちで考えて、学童の子供

たちを楽しませるものだったので、私自身も達成感を味わった。私はボランティアサークルに入っていないけれど、今回の活動で少し気になっているので、家族と相談して決めたいと思う。

- ・最近、自分自身たくさんボランティア活動に参加して、最初は難しくて面倒くさいイメージだった。でも、たくさん参加して、自分たちでやることを決めてから行動する楽しさが分かり、もっといろんな人と関わって、公共の人たちのお手伝いをしていきたいと思った。ボランティアをすると時間もかかるし、お金を使う場合もあるけど、それを使うぐらい価値のあることをしていると思った。これからは機会があったら積極的に行っていきたい。
- ・今回初めてボランティア活動をして、地域のごみ拾いや花植えなどとはまた違うのだと知った。このセミナーのテーマにある通り、児童と触れ合うボランティアを通して、このような活動があると見つける、自分のやりたいことをボランティアとしてつなぐ、新しいことにどんどんひらいていく、という考えで、自分も体験できた。自分たちで、子供たちの急なことにも対応できたので、このようなボランティアは、たくさんの人と交流できる大切な機会だと思う。



(2) 班付アドバイザーの感想

- ・「ボランティア」と最初に聞いたときに、中学生をただサポートするだけで、“お手伝い”という感覚のものだと思っていたけれど、実際は中学生と一緒に小学生が楽しめるように考えて、“自分で行動する”というものだったので、ボランティアのイメージが変わった。また、バラバラの年齢だったけれど、それぞれの知識、アイデアを用いて、自分たちも小学生も楽しめるようにできて良かった。これからは多くのボランティアに参加したい。
- ・中学生の時に一度だけこのセミナーに参加して、今回班付アドバイザーとして参加し、当時とは違う視点で“ボランティア”活動をするのができた。実習に行くと、その場にいると、ボランティアを通して考えさせられることの方が多く、私の中で、“している”という感覚より“させてもらっている”という感覚が変わった。班員たちと共に活動して、みんな自発性が高く、自然と意見を出しやすい雰囲気をつくっていて、企画案にオリジナルの工夫を付け足すなど、高め合うことができた。今回の活動を通して、学んだことを学校に戻っても活かしてほしい。



・試行錯誤しながら準備をし、迎えたボランティア当日。自分ができることを活かしながら子供たちと交流する様子と終わった後のやりきった表情に心うたれた。参加した生徒だけでなく、自分まで貴重な経験をさせてもらった。ボランティアと聞くと、奉仕活動や慈善事業といったイメージがあり、抵抗がある人も中にはいるのではないかと思う。今回のセミナーに参加した子たちには、MYボラの精神を広める一人となって、周りの仲間と活躍してほしい。

- ・こんなにたくさんの中学生在ボランティア活動に興味を持ち、学校を離れ、セミナーに参加してくれていることがとても嬉しくも思った。私の班は参加者同士打ち解けるのも早く、企画もスムーズに決まり、見ていてとても頼もしかった。限られた時間の中での活動だったが、お互いにたくさん話をしながら取り組むことができ、私もとても楽しいセミナーとなった。ここで体験したことを活かし、これからは自分のできる範囲でボランティア活動をしていってもらえたら嬉しい。私も市町担当者として中高生の皆さんの活動を応援し続けたい。

4 参加者アンケート（回答数 49）

問1 今回の交流会に参加していかがでしたか。満足度を0～100（%）でお答えください。

100% 39人 95% 4人 93% 1人 90% 4人 80% 1人

主な理由

- ・班員や子供たちと仲良くなれたから。みんなと協力できて楽しかったから。
- ・自分たちの考えた企画を実際に子供たちに実践できたから。成功した時の達成感があったから。
- ・ボランティアの大切さや楽しさについて学ぶことができたから。
- ・班付アドバイザーがいてくれて活動しやすかった。
- ・地域の人や先生たちの役に立てたから。
- ・いろいろなボランティアサークルを知ることができたから。
- ・計画から実行までの中で、自主性が身に付いた。
- ・もう少し、「自分から行動」という目標を高められたらよかった。
- ・ボランティアセミナーの参加者との交流が少なかったから。

問2 今回のセミナーに参加した理由に○をつけてください。（いくつでも可）

項目	回答数	回答率
1 ボランティア活動や地域活動に興味があったから	26人	53%
2 友達に誘われて	12人	24%
3 学校の先生のすすめ	19人	39%
4 お家の方のすすめ	5人	10%
5 活動内容に興味をもった	23人	47%
6 チラシをみて興味をもった	17人	35%
7 他校の生徒と交流したかった	13人	27%
8 その他	7人	14%

生徒会からのすすめ、子供が好きだから、地域を支える活動を試みたかった、内申点

問3 今後このようなセミナーやボランティア、地域活動の機会があれば、参加したいですか。

項目	回答数	回答率
1 ぜひ参加したい	35人	71%
2 できれば参加したい	14人	29%
3 あまり思わない	0人	0
4 参加したくない	0人	0

問4 今後ボランティア活動や地域活動の企画・運営に取り組んでみたいですか。

項目	回答数	回答率
1 ぜひしてみたい	28人	57%
2 できればしたい	18人	37%
3 あまりしたくない	3人	6%
4 したくない	0人	0

7 最後に…

今年度のテーマは、『未来への一步～つなぐ ひらく 見つける～』でした。コロナ禍で様々な活動の意義などが見直され、オンラインの有効活用についても推奨されていますが、“ボランティア”における“人と人とのつながり”の重要性は変わらず欠かせないものです。このセミナーで、どの参加者も初対面の仲間、班付アドバイザーとかかわり、「人とつながる、自分たちの可能性をひらく、新しい自分、価値観を見つける」ことができたのではないのでしょうか。このセミナーでの多くの出会いと経験が、参加者の成長の糧となったことは間違いありません。そして、今後の生活に生かして行ってほしいと願っています。